

昨年度の総会報告

平成七年度の総会は、八月十三日(日)午後五時より、一宮平安殿を会場に開催されました。地元・一宮で総会を催すのは、平成四年度以来、三年ぶりのことです。当日は例年同様、真夏の太陽が照りつける暑い日でした。会は、傍島章介副会長の開会宣言に始まり、山内進同窓会長のあいさつ、母校現校長の安藤浩昭先生のあいさつ、来賓を代表しての加藤十八先生のあいさつと続きました。ついで山内会長を議長として議事に移り、事務局から平成六年度の事業報告・会計報告がなされ、それぞれ承認されました。さらに事務局から会則の改正に関する提案も行われ、これも承認を得ました。今回の会則の改正は、同窓会役員として「庶務」を新設して「事務局の代表をあてる」と定めたこと、また従来「事務局は母校に勤務する会員によって運営する」と規定されていたものを、「事務局は母校の現教職員若干名によって運営する」と変更したことの二点でした。その後、平成七年度の役員選出に移り、前年度の役員全員の留任と、新たに「庶務」として事務局の山内清生を選出しました。次に再び議事に戻り、事務局からの平成七年度事業計画・予算案の提案がそれぞれ承認され、議事が終わりました。

今回の総会には、ご多忙にもかかわらず旧職員九名、現職員十四名の先生方出席していただきました。あらためて厚く御礼申し上げます。また一般会員については、別項にありますように、全日制第九卒業生が今回の総会の中で学年同窓会を企画し

たことから、出席者数が底上げされ、全部で八十四名を数えました。

総会後半の懇親会は、別室に会場を移し、五時四十分、小川健一副会長の開会宣言で始まりました。会場は最初からなごやかな雰囲気包まれ、柘植敬一郎先生の乾杯のご発声とともに、出席者は会食に移りました。各テーブルでは師弟入り混じってなつかしい高校生時代に思いを馳せ、しばし時間の経過を忘れるひとときでした。歓談に酔いしれ、旧交を温めること一時間半あまり、最後は「尾張野のくぬぎ林に春の日の光あまねし……」と始まる母校の校歌を斉唱し、林幸男先生のご発声による万歳三唱で締めくくって、平成七年度の同窓会総会は盛会のうちに幕を閉じました。



例年、同窓会の総会というと、参加を尻込みするという人が多くいます。しかし、今回のように並行して学年単位の同窓会を開くこともできますので、たくさんのお友に出会う好機として積極的に活用していただけたらと思います。

昨年の同窓会総会にあわせて9回生の学年同窓会を行い、七十名弱の参加がありました。なにせ卒業してから二十年ぶりの再会であり、お互いに名前と顔がマッチしないこともありました。それでも、同じ釜の飯を食った仲だけに昔の話に花がいつぱい咲きます。バスケット部の女子(現在は女子という言葉は合わないかな?)は、久しぶりに全員が揃ったということで一段と華やいだ感じを受けました。高校時代の今だから語れる話、子供が高校生になってしまった話、仕事における様々な話など年齢を感じさせる話題も豊富でした。特に、「我々の高校時代と今の高校生との違いがあまりに大きくてね、西高でもわからないわ。」と言われた時、思わず比較できる差でないことに気づいてしまったのでした。

二次会はカラオケへ行き、修学旅行で歌ったフォークソングをいっしょに歌いまくりました。現在の西高は、関西方面へ4クラスつづつ二班に分かれて逆回りコースで出かけています。我々の時は、ハクラスで信州方面でした。ハイキングやキャンプファイヤーをしました。誰かがいつもギターを持っていたように思います。三次会は喫茶店で酔いをさまし、楽しい懐かしい会が終りました。

私は、幸いなことに現在、一宮西高校に

二十年ぶりの学年同窓会

塚本義光 (九回生)

勤務しています。高校時代と変わらないような生活を送っており、高校時代を懐かしむことがあまりないのですが、昔の友と合うとやはり感激があります。「たまには同窓会もいいものだなあ。」と思い、今度は何時にしようかなと考えています。同窓会総会と並行して行いましたが、気軽に楽しく行え、良い方法ではないでしょうか。九回生のみならず、またの機会を楽しみに、ぜひご参加下さい。それでは、お元気で！

